

桜萩会だより 創刊号

昭和57年5月10日発行
宮崎県立小林中学校
" 小林高等女学校
" 小林高等学校
関東地区同窓会
編集兼発行人
森山誠一
東京エコン内務事務局
281千葉市長沼町135
☎0472(59)1211

広告と原稿を
募集します。

創刊を祝して



会長 森永貞一郎

(田中二回)

桜萩会の会報が発行されることになった。これが創刊第一号である。大阪に一步先んじられたようだが、何はともあれ、発刊を心から祝したい。桜萩会々員相互の連絡や親睦など、その意図するところは多いと思うが、その今後の発展を祈りたい。

年に一度の桜萩会の総会の時期も近づいた。私自身会長に押しきれながら、何かと都合が悪く、出席率は必ずしも良い方ではなかった。今は浪人で公務による差支も少なく、これからは出来るだけ出席したいと思っている。会員の皆さんも挙って顔を見せて下さい。顧ると昨秋の母校六十周年記念式典は在学生を含め父兄や母姉、先輩など何千人かが一堂に会し、意義深い、思い出に残る盛会であった。私も何十年かぶりに母校を訪れ、請はれるままに思い出話などで一時間皆さんのお耳を汚したが、その直前に聞いた小林高校の校歌の各節末の「力あれ」「光あれ」「栄あれ」がたいへん気に入った。私の話も最後はこの三句で結ばせていただいた。桜萩会にも「力あれ」「光あれ」「栄あれ」とその将来の発展を祈りたいと思う。



桜萩会の心と悩み

桜萩会幹事長 森山誠一

(田中十五回)

小林高校関東地区同窓会の母体が出来たのは昭和三十四年でした。それが装いを整え、桜萩会として新たなスタートを切ったのは昭和五十一年です。在京同窓生の数が増えるにつれ、同期会の連繫だけでなく、縦の繋がりも深め、親睦を計り、お互いに力になり相携えて

祝・発刊

小林高等学校校長 久保和彦

(高二回)

桜萩会だより発刊おめでとうございます。過去幾度となく、定例総会へのご招待の栄に浴し、出会の度毎に、会員諸賢のご活躍の様子や桜萩会のご盛況ぶりを目のあたりにし、母校を預る者の一人として、頼もしくも心強いものを感じております。故郷の山河を象徴する桜花と白萩をその名に戴く本会に、関東一円に在住の同窓生諸兄が、母校の名のもと心を一にして相集い相語らいながら旧交を温め、親睦と交誼の絆を深くしておられる姿を拝見しますとき、母校のもつ意味やその歴史と伝統の重みを身にしみて痛感いたします。

この度の桜萩会だより発刊は、時宜を得て誠に意義深く、本会が確たる軌道を得て着実に発展していくよすがとなりますことを信じてやみません。ここにいたる皆様のご努力を顧み、深く敬意を表しますとともに心からお祝い申し上げます。

昨秋の本校六十周年記念行事は、そのすべ

前進しようとの求心力が動機になったのです。いま、首都圏に千名近くの同窓生がおり、あらゆる分野で活躍しています。郷里を遠く離れ孤独な戦いに健斗されている人も居ます。未だ運に恵まれず傷心の人もいます。病に苦しんでいる人もいます。素晴らしい活躍をしている人材もいます。年代は違っても、同じ校庭で、霧島の嶺を仰ぎつつ育ち、心のふるさとを同じくするこれらの人達が申広く手を繋ぎ、絆を脱いで昔を想い今を語り、明日に向けて励まし合い、扶け合えば、勇気も湧くし力も強くなります。こうした気持ちの結集が桜萩会の原動力です。会の心なのです。

桜萩会の運営は幹事会でやっています。各半年毎に世話役(幹事)を数名ずつ出して貰い、その人達で合議し、手分けして実施するというやり方です。目標は、いかにして魅力あり、役に立つ桜萩会にするかということ、

桜萩会の御発展を期して

小林高等学校同窓会長

志戸本慶次郎

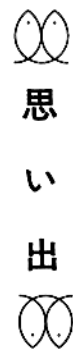
(田中九回)

昨年の小林高校関東地区同窓会の総会以来も早一年がめぐり来て本年度の総会の開催の日が到来するという事で、光陰の早きに驚いている訳であります。会員各位益々御健勝の事と存じ、日頃の御無沙汰を御詫び申し上げる次第であります。昨年の小林高校創立六〇周年の記念事業計画に当りましては、貴関東地区の会員の皆様には大変御協力を賜わりまして盛大に挙行するを得ると共に、予想以

幹事一同心を砕いておりますが、みんな本業を持った上でのボランティア活動ですので時間すら思うようにとれません。それに幹事未定の年次や、顔を出して戴けない年次もあり連絡が密にとれません。それに会費が入らずふところ具合が窮屈です。それが悩みです。そういうなかで、何とか基礎だけは出来たと自負しています。問題はこれからです。今後は組織の充実が課題だと考えています。その一つとしてこの会報を発行することにしました。名簿も作ることにしています。何か日常活動もやりたいと考えています。会員の皆さん。自分達の会として、自分達の手で桜萩会を育て上げようではありませんか。積極的参画をお願い申し上げます。

上の好評裡に計画の遂行を終了する事を得ました。大いに感激を致した所でありました。森永会長におかれましても態々御帰省を忝うし記念講演を賜り、計画に一段の精彩を与えて戴くと共に、会員の多数の御帰省参加を得ました事など全く感激の到りであります。記念事業の実践に当りましては一応後始末も万事終了し、滞りなく締めくくりの出来ました事などを含めて安堵致したところでありました。その後高校における学校運営も順調に運んでいるようであります。伝統駅伝や女子バスケットの戦績必ずしも優秀とは言えませんが、本年三月における大学進学状況は一段と上昇し、学問とスポーツの両立する事を弥が上にも示唆するものとして慶び申し上げます。このころであります。今後ますます同窓生一同の激励を得て母校の発展を祈る次第であります。会員各位それぞれの御立場において御多用の事と存じます。時下誠に酷しい状況に直面し御互いに不屈の精神を以て対応しなければならぬ状況のようであります。皆様の御健闘御健勝を祈り、今後の御指導を賜わらん事を願ひ桜萩会の御発展を期待申し上げます。次第であります。





思い出

桜萩会副会長 石渡浩子
(旧高女二十二回)

昨秋、母校の六十周年で三十年振りに小林に帰りました。山の姿も人情も少しも昔と変わりなくとも楽しい三日間を過ごしました。昔と格段に変わったのは高校を始め建物が皆きれいになった事でしょうか、上京したての頃はどこかに小林の方はいないものかしら、と思いつつも子育てに追われて二十余年の年月が過ぎてしまいました。数年前から同窓会の幹事会に出席する様になり、それぞれの分野で活躍のたのしい先輩やフレッシュな後輩等にお目にかかる様になり、私にとって楽しい集りになりました。旧制の高等女学校の方々もいらつしやる様です。是非同窓会にも出ていらして下さい、父が小林高女で九年間も校長をして居りましたので、その点でも

「桜萩会だより」

発行について

編集担当 白井忠功
(高二回)

五十五年十一月十四日桜萩会幹事会で、会報発行について決議がなされ、石渡(高一回)永崎(高四回)小斎平(高五回)有馬(高十回)白井に編集を委嘱された。それより早く関西地区同窓会機関紙「高千穂会報」が発行されていた。編集担当の阿久根氏(高三回)へ、会報発行の経緯を問い合わせた。基本的には広告収入をもって独立採算とする旨の返事を得た。その後編集委員会は何等具体的な検討を行なわないままに時間を過ぎたのは、担当者(白井)の事情によるもので、諸氏に大変迷惑をおかけした。去る二月二十六日桜萩会幹事会において、会報発行の実現を目指して積極的な意見が出され、幹事長森山氏(旧中十五回)副会長橋口氏(高一回)が参加され、三月十四日立野法律事務所(旧中十七回)で編集会議を持った。会報名を「桜萩会

とてもなつかしいのです、春は桜吹雪の中を秋は白萩の咲きこぼれる校門からの道を今でもはつきりと思い出します。共学になって男子部の方へ行つた時教室の汚なさにびびくりしたものです。掃除をさぼって帰る男の子をつかまえて掃除をやらせるのは一苦勞でした。男の子をあまり男の子と思っていなかったの、先日帰った時も貴女の事はあまり女の子だと思つた事はなかったと同級の男性に云われてしまいました。つらかった戦時中も何とか切り抜けて来られたのはやっぱり小林の方々の人情のお陰だと今でも思つて居ります。父も亡くなり兄も亡くなった今、私が少しでも同窓会のお役に立つて、ご恩返しの方分の一でも出来たらと思つて居ります。利害関係なしで本当に楽しくお酒が飲めたり、云いたい事を云わせてもらえる、こういう集りはとても大切なものだと思つて居ります。私も何なりとお役に立つ事がありません。私も何お力になりたいと思つて居ります。

だより」タブロイド版二頁、四段組、見やすい紙面(活字を大きく)と決めた。早速、関係各氏へ原稿を依頼した。その際、五人の方に広告の掲載をお願いしたところ、好意的な快諾を得た。紙面を借りてお礼を申し上げたい。四月十日立野法律事務所再び編集会議を開いて、紙面割付を行ない、陽光印刷(石渡氏)へ印刷を依頼した。第七回桜萩会総会の案内状に同封して、会員諸氏へ送付することになった。今後のご協力をお願いしたい。

事務局通信

塩入初男
(高十回)

桜萩会事務局として、早六年の歳月が流れるようとしておりますが、前向きなお手伝いは何も出来ずじまいで恐縮の極であります。

この間に一応の基盤は整備された認識致しておりますが、之もみな、会長、幹事長をはじめとする大先輩の方々並びに、会員各位の御指導御協力の賜と感謝を申し上げます。

ます。
時折り地図を広げ、吉都線を辿りますと、霧島の峰々が語りかけて参ります。
花見のころは、牧場の桜を、近郊に田植が始まると、さのぼりを、小さな庭先のつつじにえびの高原を……季節の移ろい行く毎に、故里に想いを馳せるのは、私が年をとったせいばかりでありましょうか。

昨今の世情にありましては、故里を想うことそれ自体に価値があるような気がしてなりません。ましてや、その故里を同じくする人々が、心を繋ぎ、心を開き合う場を持つという事は、意義深いことであると思つております。

「桜萩会だより」創刊につき、一文をというお申しつけでありましたが、事務局としてこの様な駄文にてお許しを願えるかどうか……最後にになりましたが、皆様の益々の御健勝と御活躍をお祈り致しますと共に、何とぞ本会へ熱い想いをお寄せいただきまます様、お願いを申し上げます。

編集後記

編集担当 永崎秀一郎
(高四回)

街路樹の緑が日毎に濃さを増し、春の草花が一齐に咲き始めました。皆様には御多忙な毎日をお送りのことと存じます。

扱て、桜萩会発足以来の念願でありながら長い間難産を続けていた桜萩会便り創刊号がやっと誕生の運びとなりました。

「会員の皆様お待たせしました」との御挨拶と共にお届け致します。創刊号ということで記事のテーマは一本に絞りましたので変化に乏しい面もありますが、次号からはバラエティに富んだ紙面をと思ひます。皆様の御近況その他各種に亘る情報をお寄せ頂きたく御投稿をお待ちしております。併せて広告の方も、よろしくお願い致します。

桜萩会便りが軌道に乗ることにより、会員の増加、親睦のため役立つことを念じながら編集室一同頑張つて参りますので、皆様の御協力を、心よりお願い致します。

祝「桜萩会だより」発刊 ● 宮崎県立小林高等学校関東地区同窓会 ●

経営コンサルタント

森山誠一
(旧中十五回)

森山経営研究所
自宅 鎌倉市津西一丁目25番地
電話 〇四六七―三二一五―一〇三

弁護士 立野輝二
(旧中十七回)

〒101 事務所

東京都千代田区神田駿河台二丁目一番地
近 岡 比 律 事 務 所
立野・横山・法律事務所
電話 (二九一) 九四六五番

印刷のご用は 何でも

陽光印刷へ

石渡浩子
(旧高女二十二回)

中央区八丁堀三十一―一十三
電話 (五五三) 九七〇七

空調エンジニアリング総合社
株式会社 橋口空調

橋口和人
(高一回)

本店 〒190 東京都立川市砂川町三二六―一番地
電話 (〇四二五) 三一一―一九五六番代

田中三蔵
(高二回)

東京エコン建設株式会社
〒281 千葉市長沼町一三五
電話 〇四七二(五九) 一一二二―
建築鉄骨・地下室・貯水槽
スチールセグメント